

# 2025 年共通テストの 結果を総まとめ！

新課程入試の初年度は、高めの平均点で受験生に追い風！

旺文社 教育情報センター 2025 年 3 月 6 日

新課程入試初年度となる共通テストが 1 月 18 日、19 日（追試験、再試験＝1 月 25 日、26 日）に行われ、先月、確定平均点等が大学入試センターから発表された。

全体を通じた得点率（6 教科 7 科目の加重平均点）はほぼ 6 割で、大きな変更がある年は平均点が高めに出るといふ、これまでの傾向が今回も見られた。特に新設の「情報 I」は 7 割近くの高い平均点となった。

※本記事のデータは大学入試センター「実施結果の概要」（2 月 6 日発表）をもとに作成。

※特に断りのない場合、データは本試験のもの。

※記事中「過去最高」等の表現は、1990 年にスタートしたセンター試験を含める。

## 全体結果

### ● 志願・受験状況

- (1)2025 年 18 歳人口 … 109.1 万人（旺文社予測）。対前年 2.5%増。
  - └大学受験生数 … 67.1 万人（旺文社予測）。対前年 3.2%増。
  - └共テ志願者数 … 49.5 万人。対前年 0.7%増。⇒ 共テ志願者は 6 年連続の減少に歯止め。要因は 18 歳人口そのものの増加によるところが大きい。
- (2)現役志願率は 45.5%で過去最高。
- (3)受験者数（実際に受験した者の数）は 46.2 万人で受験率は 93.3%。コロナ禍以降、欠席者（総合型・推薦型の合格者が感染を避けるために受けない）の多い状態が続いたが落ち着いてきた。
- (4)このうち追・再試験の受験者（1 科目でも受験した者）は 878 人。コロナの影響で過去最多となった 2023 年（3,471 人）から大幅に減少。

### ● 全体の平均点等

全教科、科目等の平均点は次ページの表のとおり。

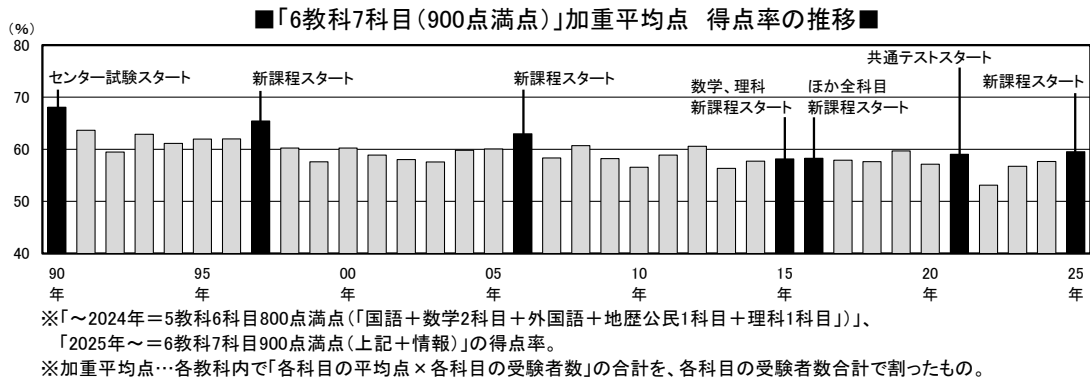
2025年度 大学入学共通テスト(本試験) 平均点等一覧[確定]

<2025年2月6日 大学入試センター発表>

教科	科目	2025年		2024年		平均点 前年差	備考	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点			
<b>基幹3教科 平均点合計(600点満点)</b> 【国語+数学ⅠA+数学ⅡBC+英語】		- (得点率)	<b>350.74</b> 58.5%	- (得点率)	344.40 57.4%	<b>6.34</b> +1.1pt		
国語(200点)	国語	437,209	126.67	433,173	116.50	10.17		
地理歴史、公民 (100点)	地理総合、地理探究	125,622	57.48	136,948	65.74	▲ 8.26	前年数値は地理B。	
	歴史総合、日本史探究	114,599	56.99	131,309	56.27	0.72	前年数値は日本史B。	
	歴史総合、世界史探究	69,273	66.12	75,866	60.28	5.84	前年数値は世界史B。	
	公共、倫理	29,042	59.74	18,199	56.44	3.30	前年数値は倫理。	
	公共、政治・経済	127,120	62.66	39,482	44.35	18.31	前年数値は政治・経済。	
	地理総合／歴史総合／公共	7,791	47.15	-	-	-		
	地理総合(50点)	5,950	21.75	-	-	-		
	歴史総合(50点)	4,005	24.83	-	-	-		
	公共(50点)	5,477	25.28	-	-	-		
	旧世界史A	167	44.51	1,214	42.16	2.35	経過措置科目。	
	旧世界史B	7,971	68.20	75,866	60.28	7.92	経過措置科目。	
	旧日本史A	282	53.95	2,452	42.04	11.91	経過措置科目。	
	旧日本史B	11,946	68.31	131,309	56.27	12.04	経過措置科目。	
	旧地理A	288	56.96	2,070	55.75	1.21	経過措置科目。	
	旧地理B	18,771	61.43	136,948	65.74	▲ 4.31	経過措置科目。	
	旧現代社会	3,654	64.96	71,988	55.94	9.02	経過措置科目。	
旧倫理	1,749	54.65	18,199	56.44	▲ 1.79	経過措置科目。		
旧政治・経済	1,944	59.84	39,482	44.35	15.49	経過措置科目。		
旧倫理、旧政治・経済	6,148	62.03	43,839	61.26	0.77	経過措置科目。		
数学(100点)	① 数学Ⅰ、数学A	308,344	53.51	339,152	51.38	2.13		
		数学Ⅰ	3,090	28.08	5,346	34.62	▲ 6.54	
		旧数学Ⅰ・旧数学A	36,274	59.86	339,152	51.38	8.48	経過措置科目。
		旧数学Ⅰ	320	32.82	5,346	34.62	▲ 1.80	経過措置科目。
	② 数学Ⅱ、数学B、数学C	285,563	51.56	312,255	57.74	▲ 6.18	前年数値は数学Ⅱ・数学B。	
		旧数学Ⅱ・旧数学B	32,182	59.42	312,255	57.74	1.68	経過措置科目。
		旧数学Ⅱ	243	30.19	4,499	35.43	▲ 5.24	経過措置科目。
旧簿記・会計	31	47.94	1,323	51.84	▲ 3.90	経過措置科目。		
旧情報関係基礎	41	56.88	381	59.11	▲ 2.23	経過措置科目。		
理科(100点)	物理基礎／化学基礎／生物 基礎／地学基礎	135,066	59.95	-	-	-		
		物理基礎(50点)	18,379	24.78	17,949	28.72	▲ 3.94	
		化学基礎(50点)	90,939	27.00	92,894	27.31	▲ 0.31	
		生物基礎(50点)	114,388	31.39	115,318	31.57	▲ 0.18	
	地学基礎(50点)	46,285	34.49	43,372	35.56	▲ 1.07		
	物理	144,761	58.96	142,525	62.97	▲ 4.01		
	化学	183,154	45.34	180,779	54.77	▲ 9.43		
生物	57,985	52.21	56,596	54.82	▲ 2.61			
地学	2,365	41.64	1,792	56.62	▲ 14.98			
外国語(200点)	英語	リーディング(100点)	453,668	57.69	449,328	51.54	6.15	
		リスニング(100点)	451,864	61.31	447,519	67.24	▲ 5.93	
		合計	-	119.00	-	118.78	0.22	
	ドイツ語	96	127.24	101	130.95	▲ 3.71		
	フランス語	116	130.59	90	125.36	5.23		
	中国語	874	166.02	781	172.08	▲ 6.06		
韓国語	235	146.91	206	145.67	1.24			
情報(100点)	情報Ⅰ	279,718	69.26	-	-	-		
	旧情報	22,171	72.82	-	-	-	経過措置科目。	

<注>

- ①地公の「地総／歴総／公共」は各分野50点で2分野選択(計100点)。受験者数と平均点は科目全体と、各分野のもの。理科の「物基／化基／生基／地基」も同じ。
- ②英語の合計平均点はリーディングとリスニングの平均点を足したものの。
- ③表中「平均点前年差」の▲印はダウンを示す。
- ④得点調整は、対象科目のうち最大の平均点差が開いたものは「物理－化学」の13.62点で、実施されなかった。



**【基幹3教科平均点合計】**(国語＋数学ⅠA＋数学ⅡBC＋英語＝600点満点)  
 ＝350.74点(対前年＋6.34点)／得点率58.5%(前ページ表)

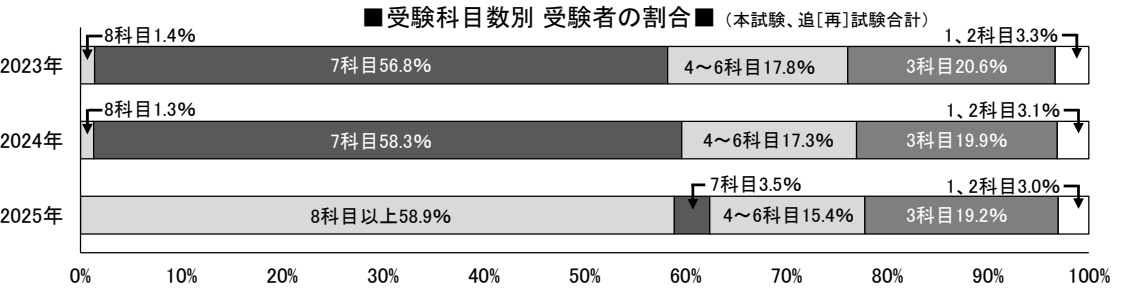
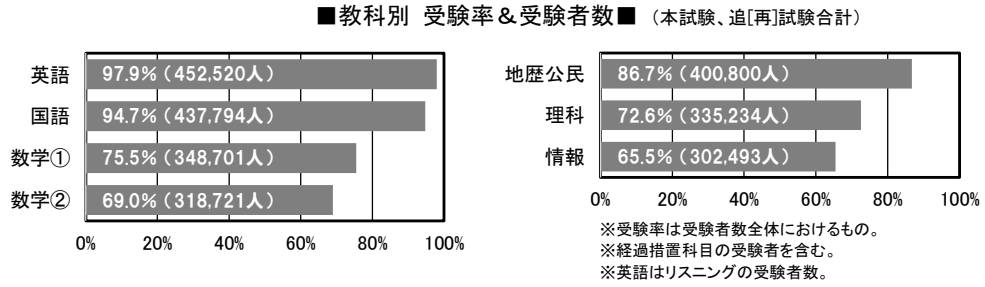
**【6教科7科目加重平均点】**(国語＋数学2科目＋外国語＋地公1科目＋理科1科目＋情報＝900点満点)  
 ＝535.57点／得点率59.5%(上グラフ)(経過措置科目を含む平均点)

今年から出題教科に「情報」が追加され、国立大のほとんどで必須とされた。その結果、国公大の典型的な共テの受験教科は、これまでの「文系型＝国＋数2＋外＋地公2＋理1」、「理系型＝同＋地公1＋理2」(数字は科目数)の5教科7科目900点満点から6教科8科目1,000点満点となった。

上のグラフと囲みはその年の共テ全体の難易度を見るために、仮に文理共通で「地公1＋理1」とした場合の6教科7科目900点満点の平均点を示したものだ。

グラフにあるとおり共テは大きな変更がある年は、平均点が大きく出る傾向がある。今年も得点率は「2024年＝57.7%」⇒「2025年＝59.5%」にアップした。

**●教科別 受験率**



受験科目数には大きな変化があった。国公立大の典型的な受験教科が6教科8科目となったことで従来の7科目の受験層が8科目に移行。8科目受験者が激増した。

7科目以上の受験者数は前年から1.6万人も増加。新課程になって国公立大志望者は「情報」の追加、数Cの追加、地公の履修単位の増加など負担が増している。当初は国公立大回避で7科目以上の受験者数が減ることも考えられたが、逆に増える結果となった。

### ●得点調整

今年の得点調整は経過措置科目も対象となり、6教科22科目間で平均点の比較が行われた（これまでは3教科10科目）。対象科目が多い、新課程で平均点がどう出るのかわからない、得点調整の実施条件が拡大（スタナインを新たに活用）、ということで得点調整が行われる可能性は従来より数段アップしていたが、実施されることはなく無事に終了した。

## 科目別結果

※以下、文章中の点差等は対前年を示す。

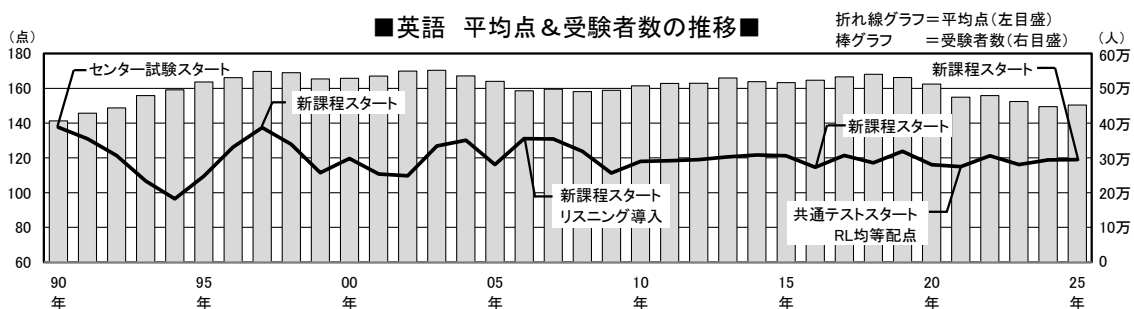
### ●英語[平均点;リーディング=57.69点(+6.15点)、リスニング=61.31点(-5.93点)、合計=119.00点(+0.22点)]

今年の英語は新課程というより、4技能評価への対応という文脈で見た方が良い。

文科省「大学入試のあり方に関する検討会議」は2021年7月、共通の英語についてR(Reading)とL(Listening)を中心としつつ、S(Speaking)とW(Writing)も可能な限り評価していくことなどを提言としてまとめた。

とはいえマーク式のペーパーテストでSやWを直接的に評価するのは不可能。そこで大学入試センターは、RとLの問題の中で「情報や自分の考えを適切に表現していく」、「論理の構成や展開を工夫する」、いわば発信力を問うような出題をしていく策を取った(2022年11月「問題作成方針の方向性」)。同時に発表された試作問題はこれを具体化したものだ。さらにこの試作問題を踏襲したのが今年のリーディング第4問、第8問、リスニング第5問となっている。

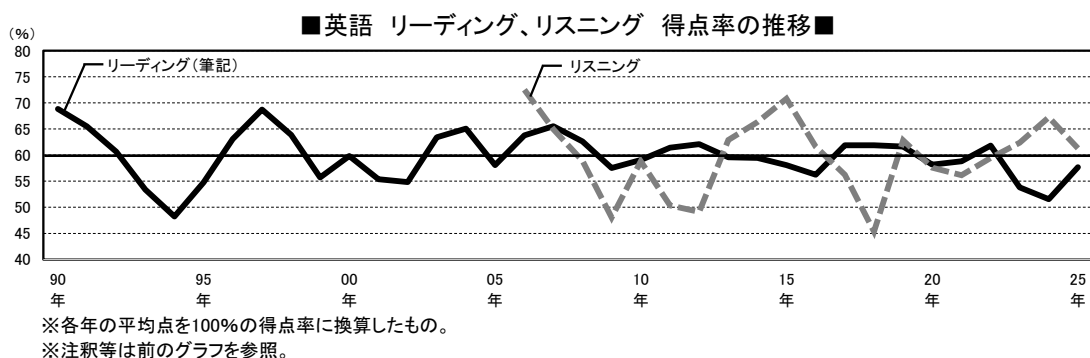
リーディングでは大問数が例年の6問⇒8問に増加したが、設問数は減少。全体的な難易度も落ち着いており、リーディング、リスニングともに平均点は6割前後だった。



※「1990年～2005年=筆記のみ200点」。「2006年～2020年=筆記200点、リスニング50点の平均点を合計して200点に換算」。

「2021年～=リーディング100点、リスニング100点の平均点を合計」。

※受験者数は、「2006年以降=リスニング」を掲載。

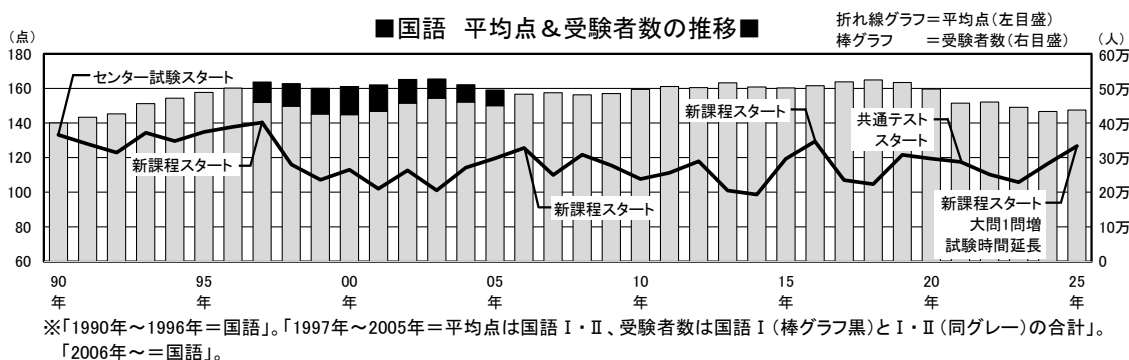


●国語[平均点; 126.67点(+10.17点)]

近代以降の文章がこれまでの大問2問⇒3問に増加。試験時間が80分⇒90分に延長。配点は近代以降の文章、古文、漢文がそれぞれ「100点、50点、50点⇒110点、45点、45点」に変更された。

新しく加わった大問ではいよいよ実用的な文章が出題された。実用的な文章は2021年の共テがスタートした際に出題が予告されていたが、これまでメインの素材として扱われることはなかった。近代以降の文章110点の「論理的な文章45点、文学的な文章45点、実用的な文章20点」という今年の枠組みは、決定事項ではないが今後も続くだろう。

各設問はこれまでは5択が多かったが、今年はほとんどが4択に減少。また、論理的な文章と文学的な文章は共テ以降、複数の素材を組み合わせた出題がなされていたが、今年は単独素材でセンター試験に近い形式だった。こうしたことから平均点は高く、6割を超える結果となった。



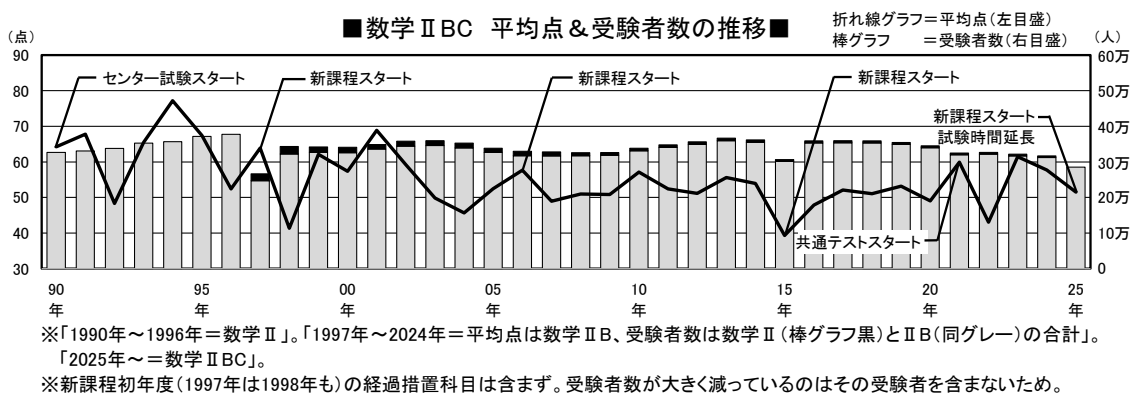
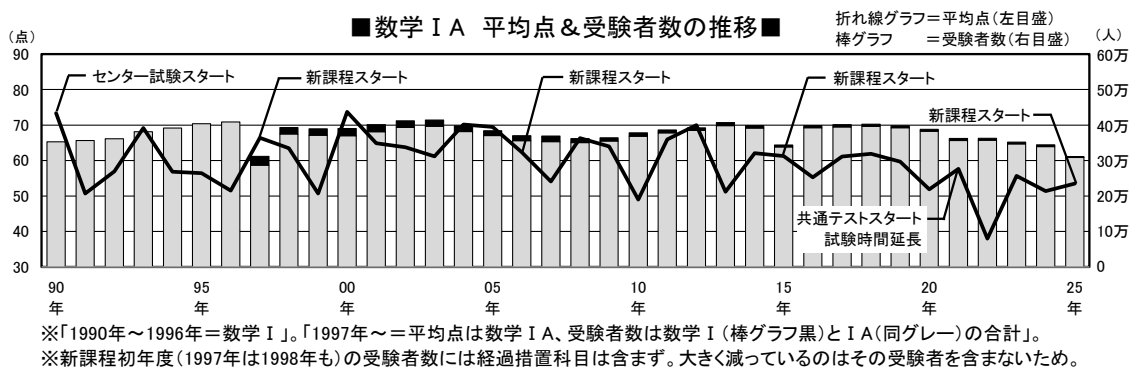
●数学[平均点; 数学ⅠA＝53.51点(+2.13点)、数学ⅡBC＝51.56点(-6.18点)]

※数ⅡBCは昨年の数ⅡBとの平均点差。

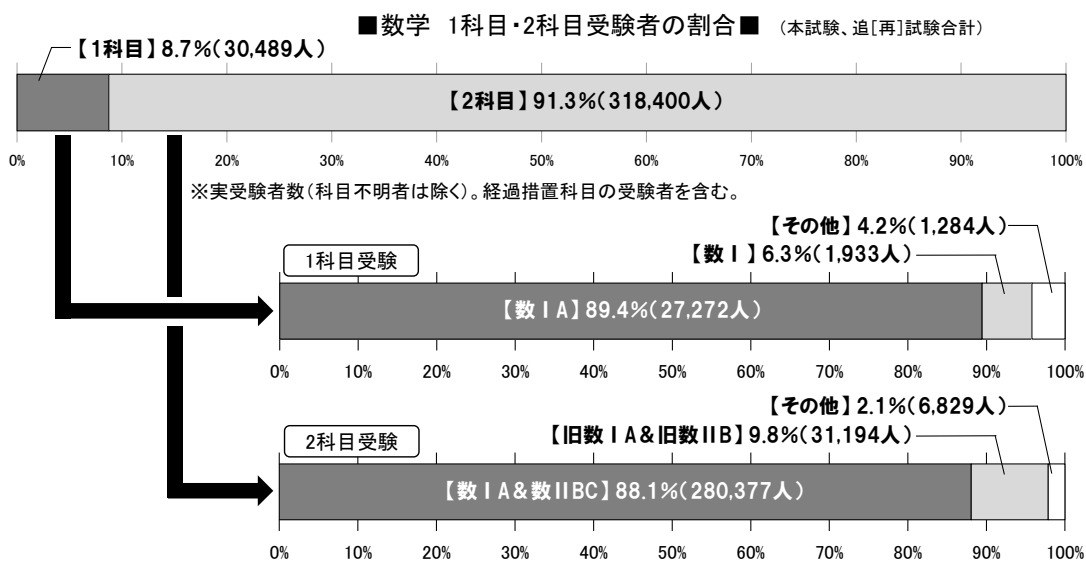
数ⅡBCはこれまでの数ⅡBに数Cが加わり、試験時間が60分⇒70分に延長された(数ⅠAはすでに2021年に70分に延長)。

数ⅠAは昨年まで「数A分野＝大問3問から2問選択」だったが「同＝大問2問で全問必答」に変更。数学ⅡBCは昨年まで「数B分野＝大問3問から2問選択」だったが「数BC分野＝大問4問から3問選択」に変更された。

数ⅠA、数ⅡBCともに平均点は例年の範囲内に収まっている。しかしいずれも標準偏差が共テ開始の2021年以降ではもっとも大きく（数ⅠA=21.42、数ⅡBC=24.20）、取れた受験生、取れなかった受験生のバラつきが大きかったことがうかがえる。



1・2科目受験別の割合は、数学受験者の9割以上が2科目。1科目受験者の大半が数ⅠA、2科目受験者の大半が数ⅠA&数ⅡBCの組み合わせだった。2科目受験者には旧数ⅠA&旧数ⅡBを選択した既卒生も1割ほどいる。





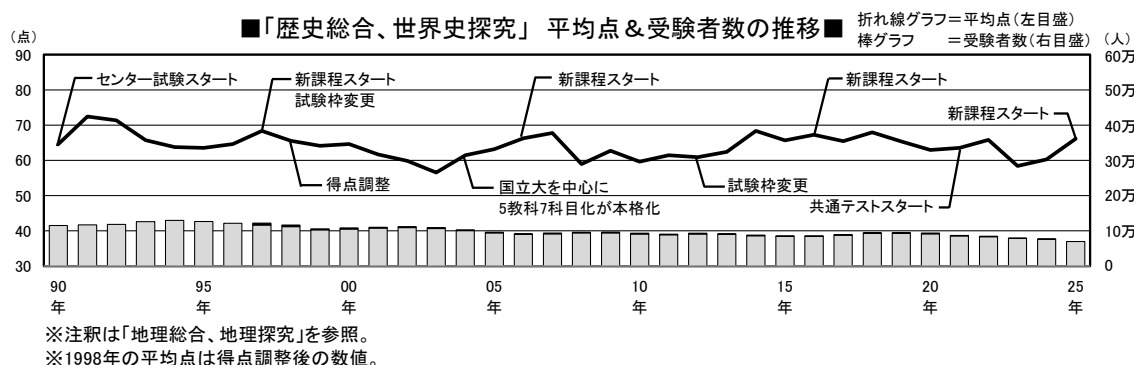
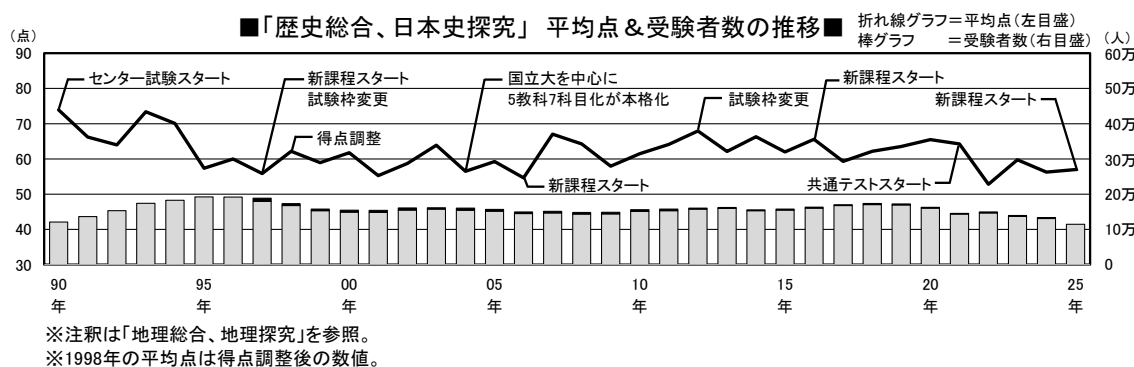
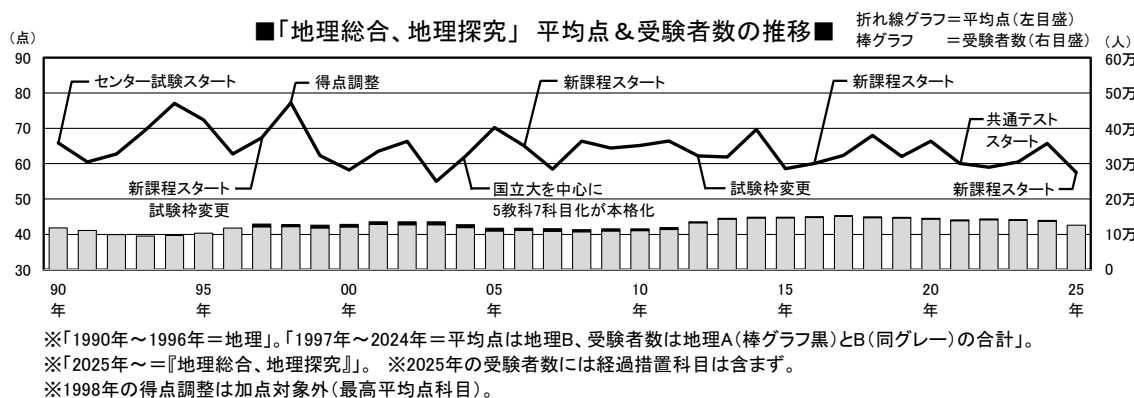
●地歴・公民[平均点;「地総、地探」=57.48点(-8.26点)、「歴総、日探」=56.99点(+0.72点)、「歴総、世探」=66.12点(+5.84点)、「公共、倫理」=59.74点(+3.30点)、「公共、政経」=62.66点(+18.31点)]

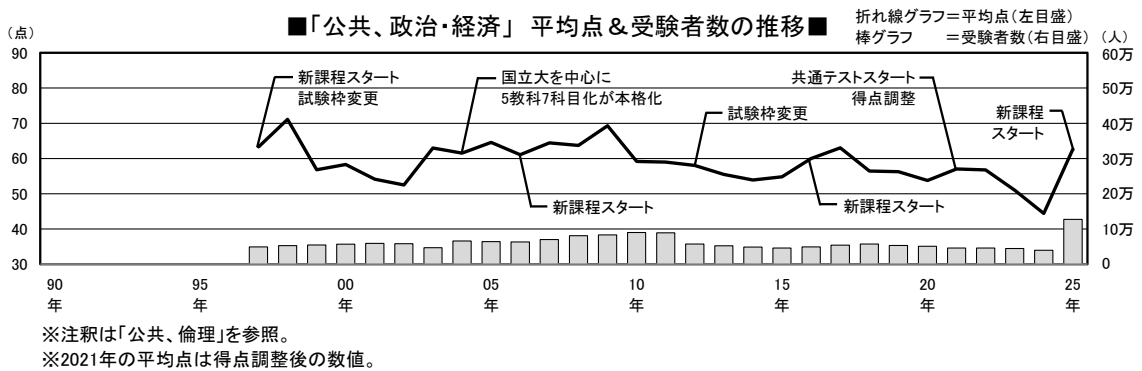
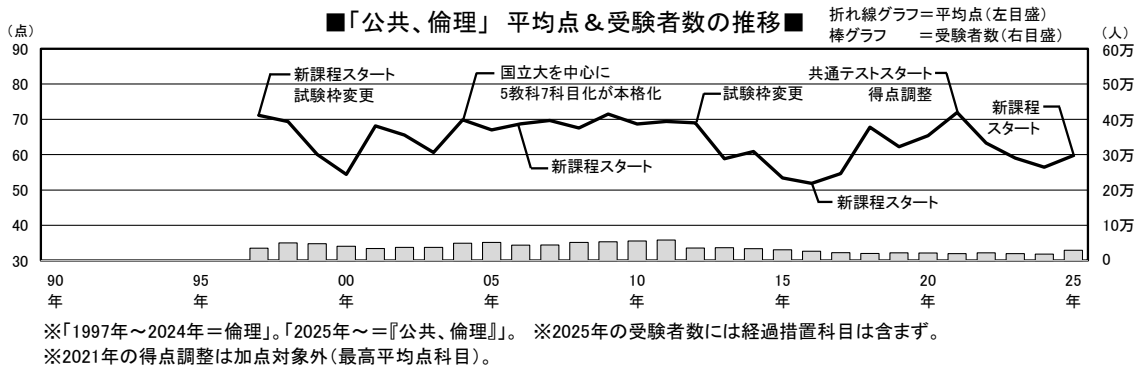
※地歴は昨年B科目、公民はそれぞれ昨年倫理、政経との平均点差。

地公は新課程で科目構成が大幅に変わった。特に変わったのは歴史で、歴総という近現代史における日本史・世界史の融合科目が加わった。「歴総、日探」では世界史寄りの問題も若干見られたが、当然このような問題が出てもおかしくはない。

指導要領上の履修単位数で見ても受験生の負担は増加した。たとえば地歴は「【旧課程】世界史B(4単位)⇒【新課程】歴史総合(2単位)+世界史探究(3単位)」に増加。公民も2単位科目がなくなり、4単位科目に統一された。

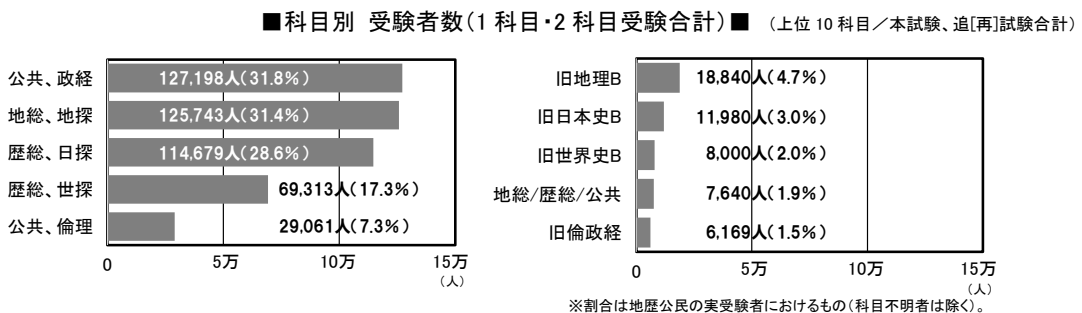
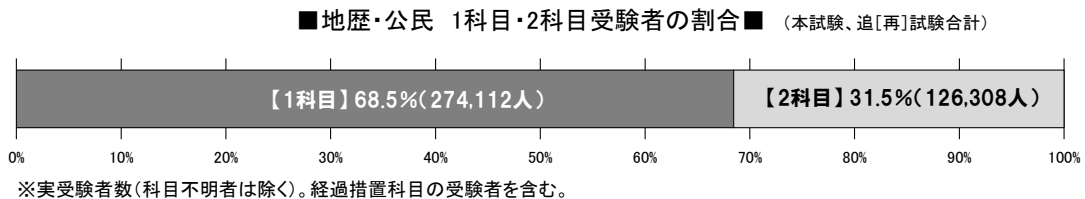
配点については試作問題と同じだった。たとえば「地総、地探」の場合、地総25点+地探75点で、地総部分は「地総/歴総/公共」の地総と同じ問題。ほかの科目も同様だ。





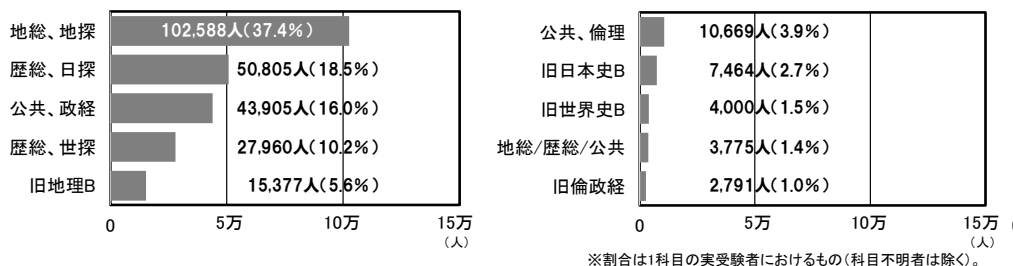
受験者数は「公共、政経」が昨年の政経から急増し、12.7万人で地公最多となった。来年は地理がトップに返り咲く可能性もあるが(今年は「地総、地探」と「旧地理B」に分散)、いずれにせよ地公の「最大勢力」は今や日本史でも世界史でもない。

「公共、政経」はこれまでの現社や倫政経の受験層が流れ込んだと思われる。次ページに1・2科目受験別の受験者数を示したが、1科目受験の理系受験者からは「地総、地探」に次ぐ選択肢として、2科目受験の文系受験者からは2科目目の科目として受験者を集めた模様だ。なお「地総/歴総/公共」の受験者数は8千人にも満たず、少なかった。

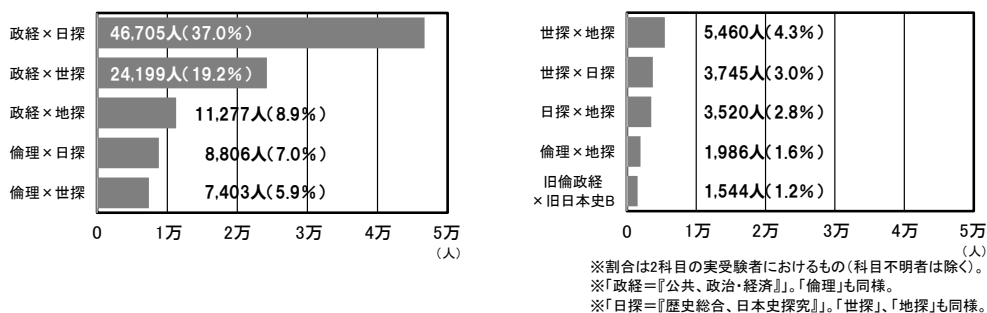




■科目別 受験者数(1科目受験)■ (上位10科目/本試験、追[再]試験合計)



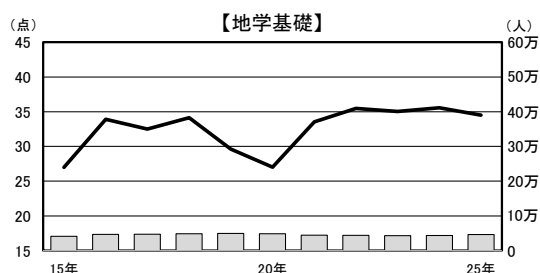
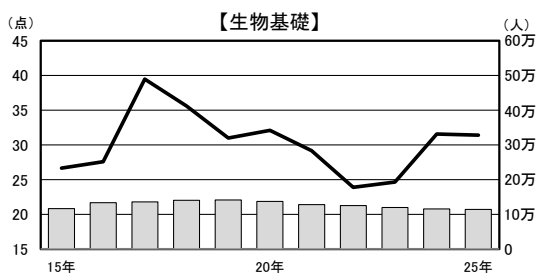
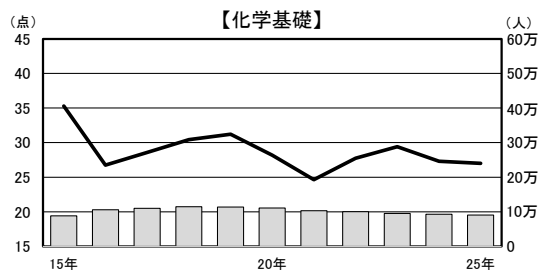
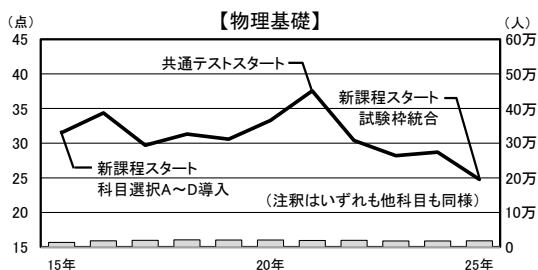
■科目別 受験者数(2科目受験)■ (上位10パターン/本試験、追[再]試験合計)

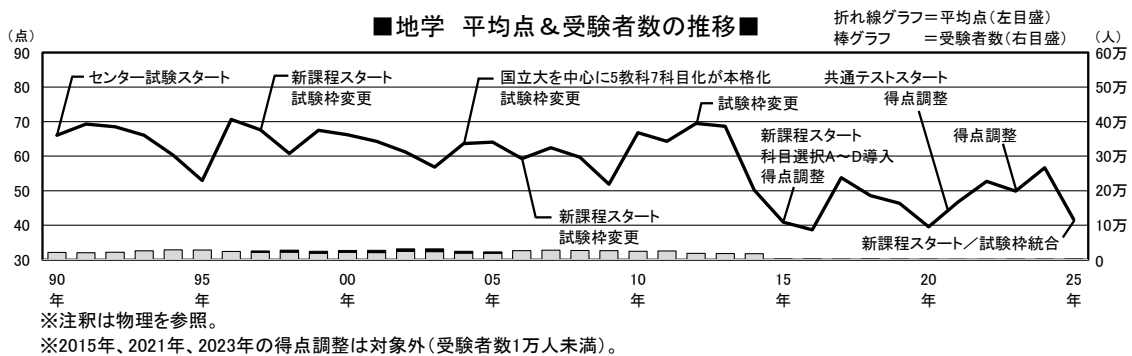
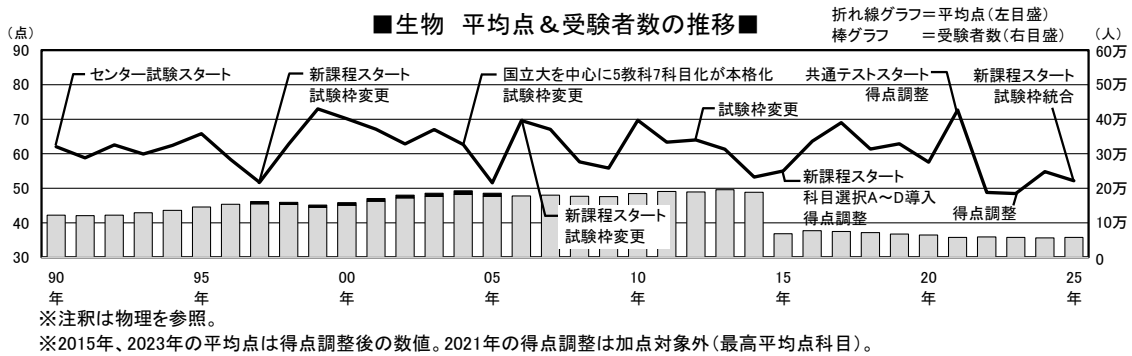
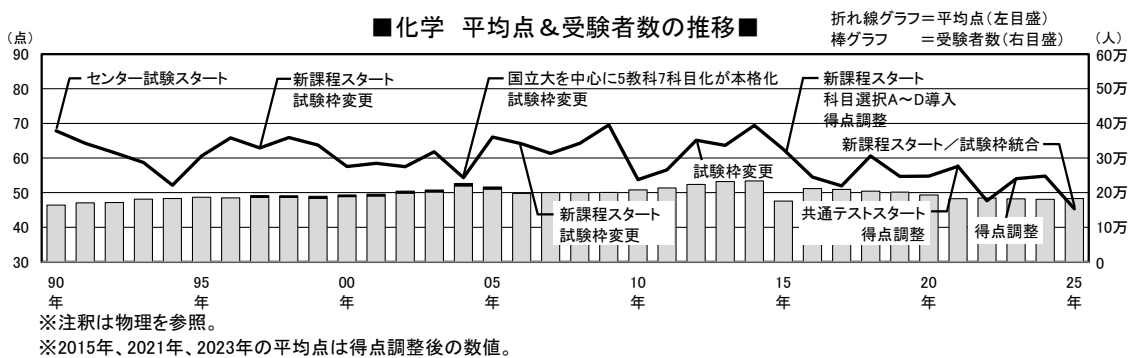
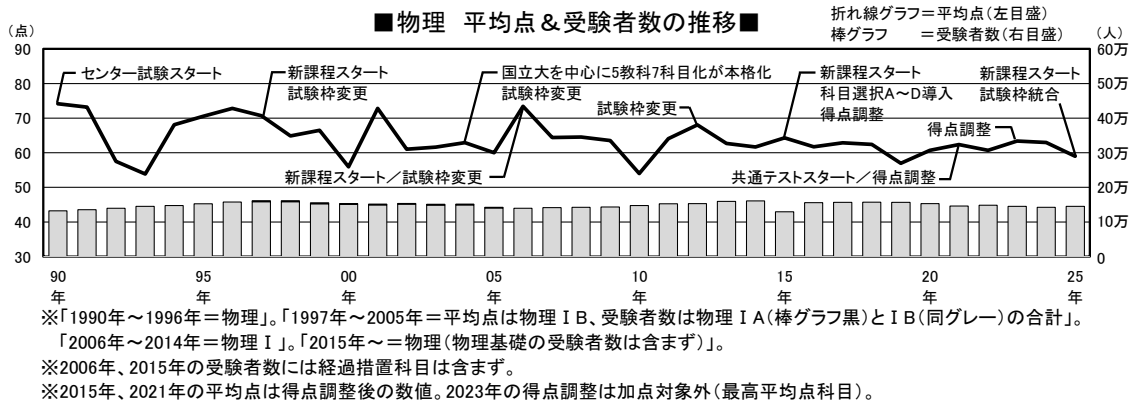


●理科[平均点;物基＝24.78点(-3.94点)、化基＝27.00点(-0.31点)、生基＝31.39点(-0.18点)、地基＝34.49点(-1.07点)、物理＝58.96点(-4.01点)、化学＝45.34点(-9.43点)、生物＝52.21点(-2.61点)、地学＝41.64点(-14.98点)]

理科は新課程による変更はほとんどなかった。基礎科目も発展科目も全範囲からバランスよく出題されており、グラフや図を読み取って考察する問題が多い。また、教科書ではあまり見られない問題も出題された。

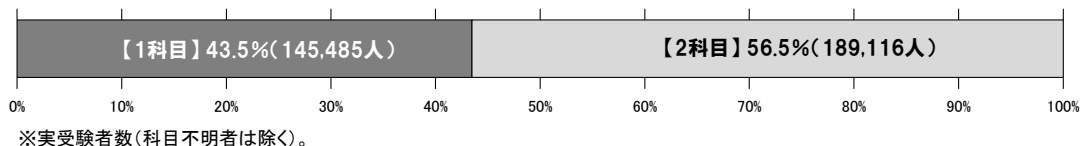
平均点は全科目でダウンし、化学は10点近く落ち込んで過去最低。物理基礎も過去最低となった。



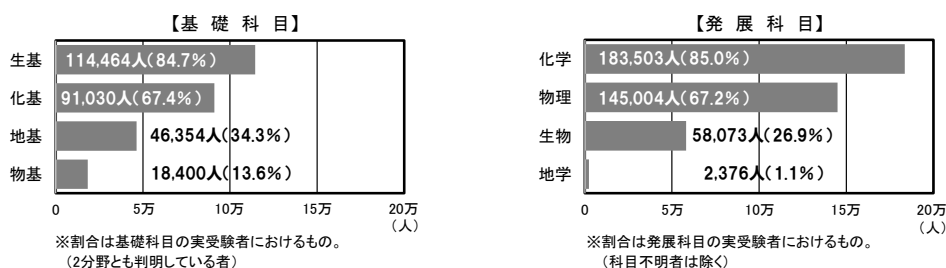


これまでの科目選択方法A～D はなくなったが、実質的には変わらず影響もなかった。  
 結局受験生は「基礎1科目(旧選択方法A)」「発展1科目(同B)」「基礎1科目+発展1科目(同C)」「発展2科目(同D)」のいずれかで受験することになる。

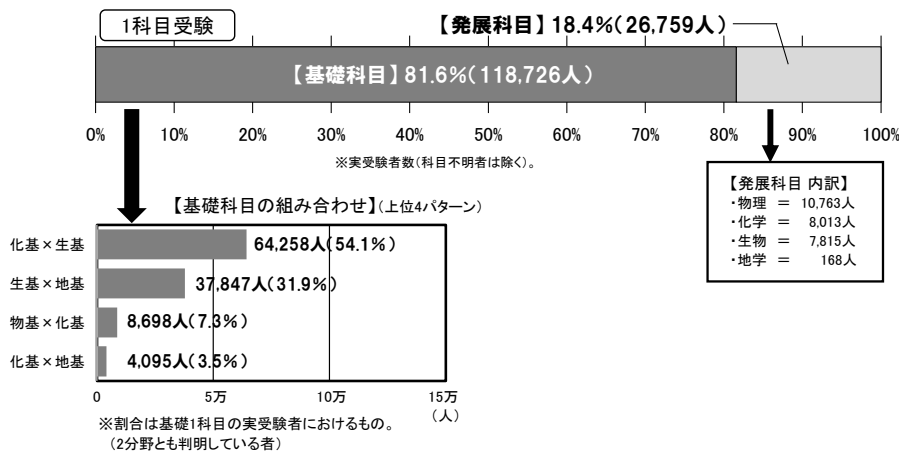
■理科 1科目・2科目受験者の割合■ (本試験、追[再]試験合計)



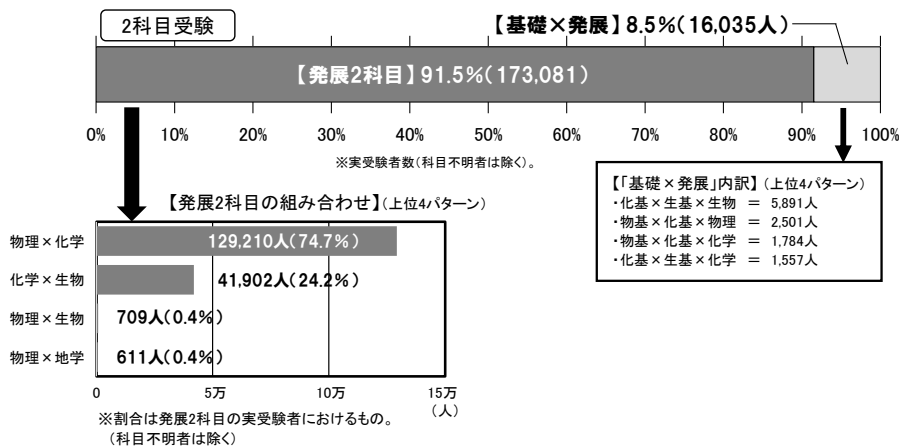
■科目別 受験者数(1科目・2科目受験合計)■ (本試験、追[再]試験合計)



■科目別 受験者数(1科目受験)■ (本試験、追[再]試験合計)



■科目別 受験者数(2科目受験)■ (本試験、追[再]試験合計)



## ●情報[平均点:情報Ⅰ=69.26点(新設科目)]

新課程共テで最大の注目は新設の情報Ⅰだろう。出題傾向としては試作問題を踏襲しており、情報Ⅰの全範囲からバランスよく出題された。「問題作成方針」(2023年6月大学入試センター)で示されていたとおり、実社会における課題を解決する問題が中心で、初見のテーマであっても既知の知識を活用して解く思考力が求められている。

平均点は非常に高く、7割に届くところだった。来年以降は難化する可能性があるので注意されたい。受験者数は28.0万人で共テ8科目以上の受験者数27.2万人に近い。情報Ⅰが国立大の多くで必須であるのに対し、公立大や私立大は選択または課さない大学も多いことから、6教科8科目の受験が必要な国立大、あるいはそれに類する公立大の志望層(実際に出願まで至らなくてもとりあえず8科目以上受ける受験者)が情報Ⅰの受験者の中心と考えられる。

ところで大半の既卒生にとって「情報」は現役の頃にはなかった入試科目だが、情報Ⅰと旧情報のどちらを選んだのか。高校で習ったのは旧情報。参考書や模試が豊富で対策が取りやすいのは情報Ⅰだ。旧情報の受験者数は2.2万人で、旧数ⅠAの3.6万人、旧数ⅡBの3.2万人と比べると少ない。このことから考えると情報Ⅰの受験が多かったと思われる。



## スタナイン

スタナインは各科目の得点分布に応じて受験者の成績を9段階に分けたもの。2021年から大学への提供がスタートし、さらに今年から得点調整の実施を判断する材料の1つとして使われるようになった。

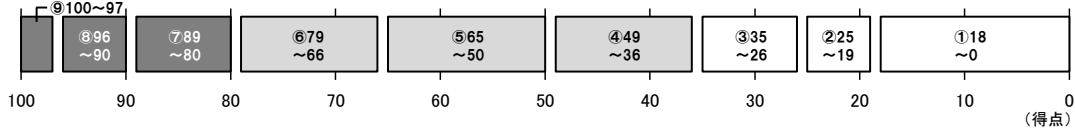
本来は大学の入試利用を目的に導入されたが、実際そうした大学は非常に少ない。現状では静岡理工科大-情報(コンピュータシステム<データサイエンス専攻>)の給費型奨学生選抜、鳥取大-工の総合型Ⅱくらいだ。来年からは千葉大-国際教養が総合型で利用を開始、再来年には園芸学部にも広げる予定だ。たとえば千葉大-園芸では1次が書類、2次が面接で合格内定者を出し、そこから「スタナインの5教科7科目合計が45以上、かつ理科2科目および外国語が7以上」の者を最終合格者とする、などの使い方を予定している。

■主要科目のスタナイン■

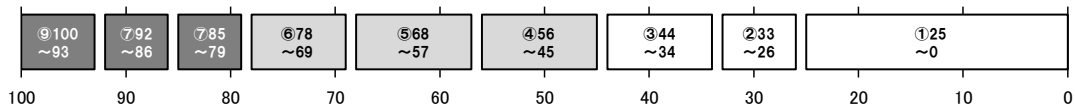
※本試験、追[再]試験共通。 ※グラフ横軸は得点、マル数字はスタナインの成績、数字の範囲は得点を表す。  
 ※各段階は受験者の集団を得点順におおよそ以下の割合で分割。

「①=4%」「②=7%」「③=12%」「④=17%」「⑤=20%」「⑥=17%」「⑦=12%」「⑧=7%」「⑨=4%」。

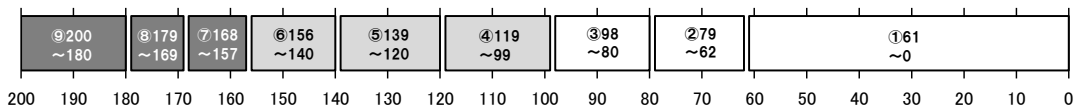
【英語(リーディング)】



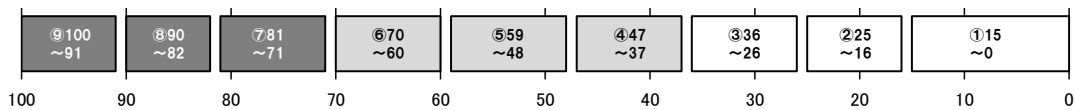
【英語(リスニング)】



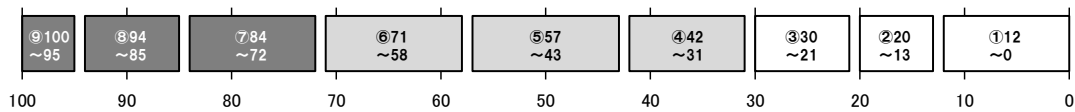
【国語】



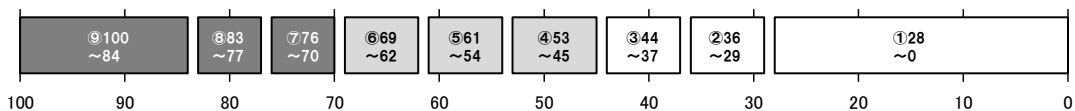
【数学Ⅰ、数学A】



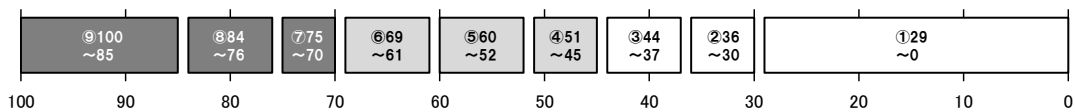
【数学Ⅱ、数学B、数学C】



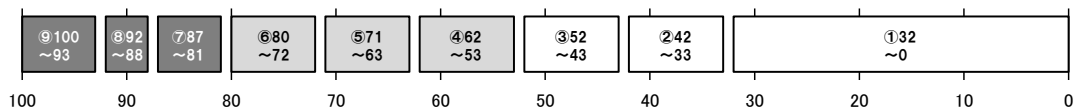
【地理総合、地理探究】



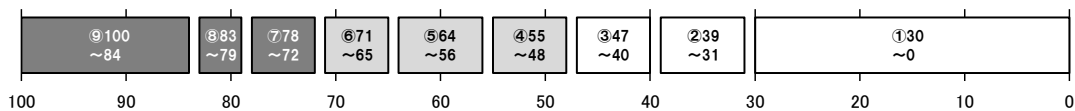
【歴史総合、日本史探究】



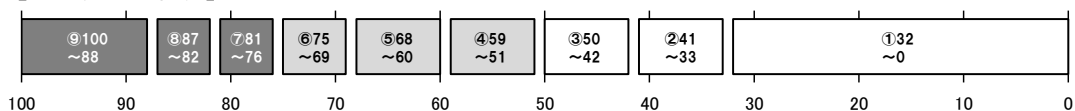
【歴史総合、世界史探究】



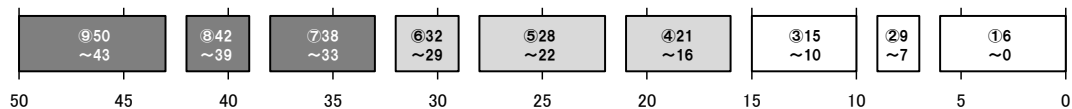
【公共、倫理】



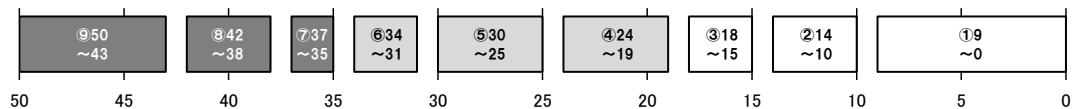
【公共、政治・経済】



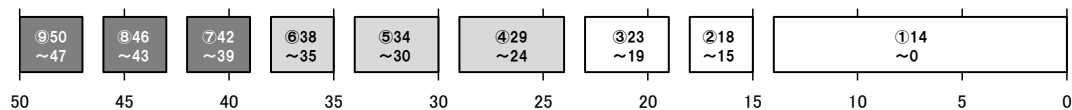
【物理基礎】



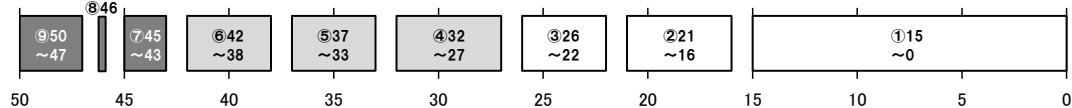
【化学基礎】



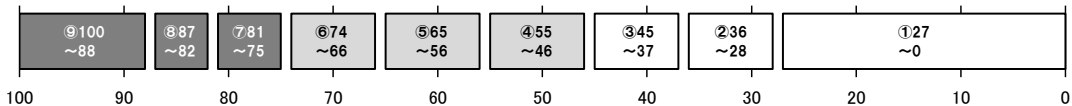
【生物基礎】



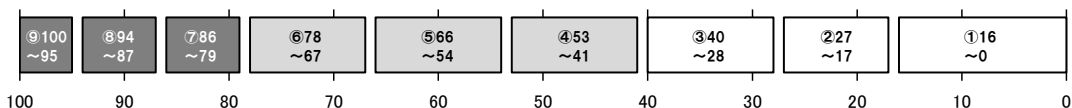
【地学基礎】



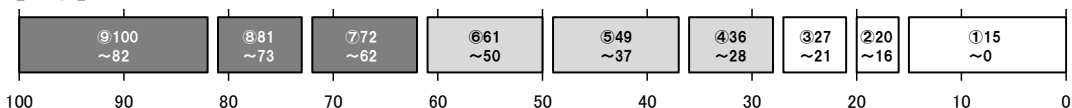
【理科基礎 合計】



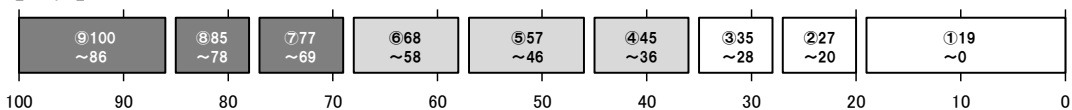
【物理】



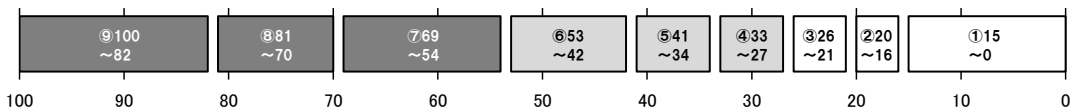
【化学】



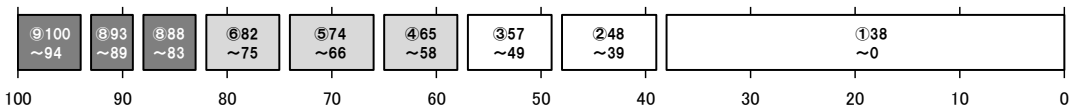
【生物】



【地学】



【情報 I】



(2025.03 石井)